

うなり崎公園の活用—観光、教育の場として

日本各地の里地で自然環境が悪化し、生物多様性が失われているそうです。西表島も例外ではありません。気温が高いため悪化が早く進むかもしれません。悪化の主な理由は人の手が入らなくなったことと推測されます。適度の伐採、刈り取りが無いため、木本植物とつる植物が繁茂し、被われて日照不足となった植物が姿を消しつつあります。自然環境を良い状態に維持、回復するには、定期的な作業が必要ということです。この根本的に重要な情報が、西表島では浸透していません。したがって、環境保全にかかわる行政等は、伐採、刈り取りの作業をしていません。作業プログラムもありません。

うなり崎での崖上景観の改善

西表島（沖縄）の代表的な景観として隆起サンゴ礁の上にソテツが生え、ソテツの株元でテッポウユリが咲く、が挙げられます。この景観は“かつて”多くの海岸で見られました。うなり崎では海岸線が入り組んでおり、多くのソテツとテッポウユリが生え、美しい景観を呈していました。この景観が失われたので、景観の回復作業を、観光と教育目的に、2023年11月から始めました（[うなり崎整備](#)）。作業を開始する前に崖上で海を眺望できた所は、南端にある東屋の近く20mほどでした。アダン、オオハマボウ、クサトベラ、ススキを除去し、400mほどで眺望が可能となりました（写真1-5）。200mほどでは眼下に波打ち際を見ることができます。西側の崖上は散策路となっています

（注）。崖上ばかりではなく、南端の小高い丘でもクサトベラ、ススキ等を除去しました。作業により瀕死のソテツに光を当てることができ、枯死を回避できました（作業中にソテツの枯死をいくつか確認しました）。生き残っていたテッポウユリも生長を回復し、多くの花をつけるようになりました（写真6）。海に沈む夕日も見られるようになりました（写真7、8）。

注）現在、散策路の入り口に進入禁止の柵とロープが張られていますが、私の感覚では散策路は危険ではありません。何人かに問い合わせをしましたが、皆が危険ではないということでした。中には柵とロープを取るべきだという発言もありました。散策者で危険かを判断して頂きたいと思います。危険と感じる所がありましたら、お知らせください。在来花木等で生け垣をつくります（既に数か所でサキシマハマボウ、オオムラサキシキブ、ガジュマルを植えています）。

今後すべき管理作業

うなり崎公園の利用者を増やすために、環境保全のために、管理経費の節減のために以下の作業を提案します。

- ・アメリカハマグルマについて（写真9）：公園平坦部に黄色の花をつけるアメリカハマグルマが膨大に繁茂しています。平坦部の周りにも膨大量が繁茂しています。この種は竹富町の指定外来植物（環境省の緊急対策外来種）ですから、駆除する必要があります。うなり崎にはやはり指定外来植物のシンテッポウユリも生えています。

- ・ネピアグラス（写真10）：この種は産業管理外来植物です。草丈があり景観を害します。相当量を駆除しましたが、まだ残っています。

- ・ミズガンピ（写真11）：この種は沖縄県の準絶滅危惧種です。上部を他の植物で被われて枯れた



写真1 西側崖1



写真2 西側崖2A



写真3 西側崖2B



写真4 西側崖2C



写真5 生長を回復したソテツ



写真6 蘇ったテッポウユリ



写真7 夕日（南西端）

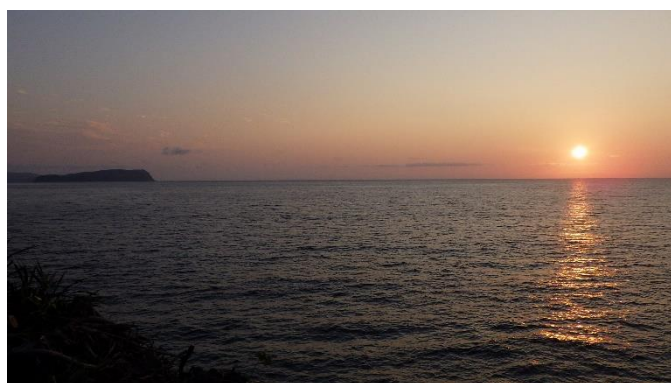


写真8 夕日（西側崖）

[このページの写真の拡大](#)



写真9 アメリカハマグルマ



写真10 ネピアグラス



写真11 ミズガンピ



写真12 チガヤ



写真13 ノアサガオ



写真14 隆起サンゴ礁



写真15 ホウライカガミ



写真16 ヒメキランソウ

[このページの写真の拡大](#)

所があります。これまで竹富町と環境省に二度、被っている植物の除去作業を依頼しましたが、作業はされませんでした。私どもの会で取り除いているのが実情です。

・チガヤ（写真 12）：多くの人にとっては、「除草 イコール 草払い機による地際での刈り取り」です。小高い丘の東側のり面でチガヤの地際での刈り取りが繰り返されています。大雨によって土壌流失が進みます（コンクリート歩道と地面の隙間が拡大します）。チガヤ管理として、20–30 cmの草丈で刈り取る方法が提案されていますが、これをすべきです。なお、チガヤは茅葺（かやぶき）に用いられました。伝統的な家屋の説明教材となります。うなり崎にはアオガンピとカジノキが生えていますが、両種とも和紙の原料となります。

・ノアサガオ（写真 13）：写真は昨年春の様子です。この状態で何もしないと地面に光が届きませんので、雑草はほとんど生えません（多くの雑草の発芽に光が必要ですが、ノアサガオの繁茂が光を遮ります）。現在、写真の場所は「除草 イコール 草払い機による地際での刈り取り」によってアメリカセンダングサ（総合対策外来種）が繁茂しています。不要な作業で無駄な経費を使う例です。

・隆起サンゴ礁（写真 14）：隆起サンゴ礁は県外の観光客が見たいものの一つです（人は身近に無いものを見たがる）。これを崩したりせず有効利用すべきです（写真の作業は何を目的にしたか理解できません）。隆起サンゴ礁はアルカリ土壌をもたらしますが、これを好む植物が生えます。このような植物を生やして、観光と教育に役立てるべきです。

生育している植物の利用と植栽

観光と教育のために以下をしています。

・ホウライカガミについて（写真 15）：隆起サンゴ礁の周りにはホウライカガミがよく生えます。この種をオオゴマダラが食べますから、生育を助長しています（オオゴマダラの金色の蛹を容易に観られるようにします）。なお、つる性のホウライカガミは被覆植物としての特徴を有しています。

・ヒメキランソウ（写真 16）：島内で採取し、増殖したヒメキランソウを植えています（写真の植栽地にはアメリカハマグルマが繁茂していました）。株間に生えた雑草を丁寧に取り除くと、広いマット状の生育地を造ることができます。この種の他に、木陰を得るために花木のサキシマハマボウ、ゴバンノアシ等を植えています。

うなり崎公園整備の問題点

うなり崎と公園整備でインターネット検索をすると竹富町の『うなり崎公園整備事業』として「西表島の優れた景勝地を整備し、観光客の受入態勢を整えることで周遊型観光から滞在型観光への転換を図る。また地域住民の憩いの公園として広く活用する。総事業費：4.1 億円（国費：3.3 億円）※2012～2016 年度、2016 年 7 月供用開始」という記述が見つかります。

公園整備前、広大な平坦部はチガヤの原野で、この中に幹直径 25 cm を超えるソテツが何本も生え、テッポウユリが咲き乱れていました。整備によって、チガヤ原野は外来種セントオーガスチングラスの芝地に置き換えられました。今の芝地状態を好む人はいるでしょうが、世界自然遺産を売り物にするのであれば、せめて在来種のコウシュンシバ（市場名コウライシバ）を植えるべきでした。現在、この芝地で、極めて丁寧な刈り取りが頻度高く行われています。セントオーガスチングラスは 25 cm 以

下の草丈ですから、刈り取りは遊具の周りとゴルフの練習場（話し合いで区域を定める）だけで十分です。今年初めに追加の遊具が設置されましたが、これ以前でも遊具の利用は多くありませんでした。利用頻度を調べて設置したとは思えません。観光客については、平坦部で足を止める者はいません。皆が崖上で写真を撮っています。現状として、うなり崎公園の造成とその後の管理は、廃屋の除去と遊具・トイレの設置は別として、費用対効果の極めて低い事業、したがって税金の無駄遣いと評価せざるを得ません。

公園西側の散策路と平坦部間の区域においては、理由がわかりませんが、作業が全くされていません。この区域に生える灌木の多く、ススキを除去したら、景観だけでも散策路からの眺望と合わせて極めて素晴らしいものになるでしょう。車で容易にアクセスできる価値の高い観光スポットとなります。在来植物と有用植物（繊維を取るリュウキュウイトバシヨウ・カラムシ＝苧麻、熱帯果樹等）を植える、植物名のプレートを付ける等の整備をすると、通常の観光客の他に就学旅行生にも訪れてもらえるようになるでしょう。一方、理にかなった作業方法で経費節減を図ることが望まれます。

西表在来植物の植栽で地域振興を進める会